

付録 22

イエス

コーランは、イエスが神の人間の使徒であり、その唯一の使命は神のメッセージを伝えることだったと教えている。彼はいかなる力も持たず、そして今は死んでいる（4:171、5:75、117）。イエスを神、神の子、または三位一体の一部と見なす者たちは「多神教徒（pagan）」である（5:17、72、73）。著名なキリスト教学者たちも同様の結論に達している（『THE MYTH OF GOD INCARNATE』 John Hick 編、The Westminster Press, Philadelphia, 1977／『THE MYTH MAKER』 Hyam Maccoby, Harper & Row, 1986）。

キリスト教はニカイア（西暦 325 年）の産物である。

聖書の中のイエス

イエスは公にこう宣言した：「わたしを信じる者は、わたしを信じるというより、わたしを遣わした方を信じるのである。……わたしは自分勝手に語ったのではない。わたしを遣わした父が、何を言い、どう語るべきか命じられたのである。わたしは、その命令が永遠の命であることを知っている。だから、わたしが語ることは、父が命じられたとおりである。」〔ヨハネ 12:44-50〕

「わたしは自分からは何もすることができない。聞くとおりに裁き、わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意思ではなく、わたしを遣わした方の意思を求めているからである。」

[ヨハネ 5:30]

イエスは言った：

「わたしの教えはわたしのものではなく、わたしを遣わした方から来たものである。」

[ヨハネ 7:16]

「イスラエルの人々よ、わたしの言うことを聞きなさい。ナザレのイエスは、神が奇跡と不思議とするしをもってあなたがたに遣わされた人である。神はあなたがたの間でそれらを、彼を通して行われた。あなたがたもよく知っている。」

[使徒 2:22]

「……わたしの言葉を聞き、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠の命を持つ。」

[ヨハネ 5:24]

「わたしを受け入れる者は、わたしではなく、わたしを遣わした方を受け入れるのである。」〔マタイ 10:40、マルコ 9:37、ルカ 9:48、ヨハネ 13:20〕

「……わたしは自分から来たのではない。わたしを遣わす権威を持つ方がわたしを遣わされた。その方をあなたがたは知らない。わたしはその方を知っている。わたしはその方から来たのであり、その方がわたしを遣わされたのだ。」

[ヨハネ 7:28-29]

イエスは天を仰いで言った：

「……永遠の命とは、唯一まことの神であるあなたを知り、あなたが遣わしたイエス・キリストを知ることである。」

[ヨハネ 17:1-3]

「神の霊に導かれる者はみな、神の子である。」

[ローマ 8:14]

イエスは上を向いて言った：「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることは知っていますが、わたしがこう言ったのは、周囲の群衆のためです。彼らが、あなたがわたしを遣わされたのだと信じるためです。」

[ヨハネ 11:41-42]

旅立とうとしていたとき、一人の男が走り寄り、ひざまずいて尋ねた：「良い先生、永遠の命を受け継ぐには何をすべきですか。」イエスは答えた：「なぜわたしを良いと呼ぶのか。良い方は神お一人のほかにはいない。」

[マルコ 10:17-18]

「……わたしを『主よ、主よ』と呼ぶ者がみな神の国に入るのではなく、天におられるわたしの父の御心を行う者だけが入る。」

[マタイ 7:21]

「……わたしの兄弟たちのところへ行ってもう伝えなさい。『わたしは、わたしの父でありあなたがたの父である方へ、わたしの神でありあなたがたの神である方へ上って行く』。」

[ヨハネ 20:17]

「神は私の主であり、あなたがたの主である。あなたがたは彼だけを礼拝しなさい。これが正しい道である。」

[コーラン 3:51、19:36、43:64]

三位一体とは、キリスト教が教える「神の教義」であり、神は本質において一つだが、「位格」において父・子・聖霊の三つであるとする。しかし「三位一体」という言葉も、そのような明示的教義も、新約聖書には登場しない。また、イエスとその弟子たちは旧約聖書のシェマー（申命記 6:4）「聞け、イスラエルよ。主なるわれらの神は唯一である」――に反する意図を持っていなかった。

『ブリタニカ百科事典（1975 年版）』

イエスの魂が引き上げられたということ（＝死）

イエスの魂は引き上げられた、すなわち彼は逮捕と肉体の磔刑の前に死に至らされた。

したがって迫害者たちは、すでに魂が去った後の空の身体を逮捕し、拷問し、磔にした。イエスはすでに魂の世界へ行っていた（3:55、4:157）。

イエスの死

これは世界で最も論争の多い主題の一つである。コーランの驚異的な数学的コードが、いまこの問題に最終的な答えを与えた、とする：

彼らは企て、策略を巡らせた。

しかし神もまた策略を巡らせた。

そして神は最も優れた策略者である。

そこで神は言われた。

「おおイエスよ、

わたしはあなたを死に至らせ、

あなたをわたしのもとへ引き上げる。

わたしはあなたを不信仰者から救う。」

[コーラン 3:54-55]

彼らは「メシア、

マリアの子イエス、神の使徒を殺した」と主張した。

しかし実際には、彼らは彼を殺していない。

彼らは彼を磔にしていない。

彼らは、そうしたと思い込まされたのである。

[コーラン 4:157]

現代の“生きた例”として（ウィリアム・シュローダー氏）

慈悲深くも神は、私たちの世代に、魂がこの世を去ったにもかかわらず身体が 19 か月生き続けた人物の「生きた例」を与えた、と述べる。

1984 年 11 月 25 日、ケンタッキー州ルイビルのヒューマナ病院の医師たちは、ウィリアム・シュローダー氏、プラスチックと金属のポンプに置き換えた（ニューヨーク・タイムズ、1984 年 11 月 26 日（月）この歴史的手術から 19 日目——1984 年 12 月 13 日（木）——に、シュロー

ダー氏、の魂、すなわち本当の人格はこの世を去った。シュローダー氏、は死んだ。しかし身体は、人工心臓が埋め込まれたまま機能を続けた。世界には「おそらく脳卒中を起こした」と伝えられた（ニューヨーク・タイムズ、1984年12月14日）。

注目すべきことに、魂が去る前日、彼は全米テレビでロナルド・レーガン大統領と話し、社会保障局に遅れている小切手を送るよう要求した。彼は完全に意識がはっきりしていた。

「脳卒中を起こした」瞬間から、彼は曜日や時刻も分からず、家族のことも認識しなくなった。つまり、シュローダー氏はもはやこの世にいなかった、という趣旨である。

福音書が示す「逮捕された身体が無反応」

福音書は、逮捕されたイエスの身体が、周囲の出来事に対して無反応であったことを明確に述べている、とする：

祭司長たちは一方で、
イエスに多くの罪状を挙げた。
ピラトは再び尋問した：
「答えることはないのか。
どれほど多くの訴えを
彼らがあなたに浴びせているか見よ。」
しかしピラトが大いに驚いたことに、
イエスはそれ以上何も答えなかった。

[マルコ 15:3-5]

ヘロデはイエスに会って大いに喜んだ。彼は以前から報告を聞いていて、長い間会いたいと思っており、何か奇跡を見たいと望んでいた。彼はかなり長く質問したが、イエスは何も答えなかった。祭司長と律法学者たちは激しく告発した。ヘロデと兵士たちは彼を侮辱し、軽蔑して扱った。

[ルカ 23:8-11]

「救い主は私に言った。『あなたが木の上で見た、喜び笑っていた者が生きているイエスである。しかし手足に釘を打たれているこの者は肉体の部分である。』」

[ペテロの黙示録 VII, 3, 81 : 『ナグ・ハマディ写本』 (ハーパー & ロウ社、1977 年、ジェームズ・M・ロビンソン編、339 頁) より]

最後に、(1) シュローダー氏の魂が手術後 19 日目に去り、(2) 彼の身体が 19 か月生存したという事実は、神が世界に、シュローダー氏の状況と、イエスが逮捕・拷問・磔刑の前に魂が去ったという証明済みの説明との並行関係を知らせたかったことを思い起こさせる、不思議な徴であるという趣旨で結ばれている。